

小牧市SDGs未来都市計画～こどもたちの夢への挑戦を応援し、未来につながるまち～

愛知県小牧市（2021年度選定）

1. 地域の特徴と課題及び目標

濃尾平野のほぼ中心部、名古屋市の北方約15kmに位置しており、東名・名神高速道路、中央自動車道などの広域交通の結節点に位置するとともに、県営名古屋空港にも近接していることから、交通アクセスの面で優れた立地条件を有している。課題としては「技術革新への支援強化」「地域や世代間のつながり構築」「持続可能な環境の維持」などがあり、その解決のため中心市街地にある「こまきこども未来館」などの魅力的な施設を活用し、こどもを中心にすべての人がつながり、まち全体でこどもたちの夢への挑戦を応援する体制を構築する。

2. 関連するゴール



3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)

経済：技術革新への支援強化としてこまき新産業振興センター運営事業、社会：地域や世代間のつながり構築として支え合いいきいきポイント推進事業、環境：持続可能な環境の維持としてごみ分別簡素化・資源化促進事業などを進め、統合的取組として、企業や市民団体が、こどもたちに対してSDGsや社会について学ぶ講座を行っていただく「こまきこども未来大学」を実施する。

4. 自治体SDGs推進等に向けた取組

① SDGsこまきカードの作成



② こまきこども未来大学の実施



6. 取組成果

① 企業・学生・行政職員・市民団体・個人など産・学・官・民の4者が参加する全4回のワークショップを通じて、小牧市に関するデータをクイズにしたコミュニケーションツール「SDGsこまきカード」を作成した。

② 2年目の実施となる令和5（2023）年度は令和4（2022）年度と比較し、6講座増やした17講座で開催し、178人が受講した。受講者の9割以上が「よかった」と回答し、参加した企業・団体の6割以上が「来年度も参加したい」と回答した。

5. 取組推進の工夫

こまきこども未来大学の開催にあたり、夏休み講座に加え、ブース出展形式の「こまきこども未来大学祭」を実施することで幅広い企業・団体等の参加を図った。

7. 今後の展開策

令和6（2024）年度は「SDGsこまきカード」を使った講座を開催できるファシリテーターを養成する講座を開催する。講座を卒業したファシリテーターが地域でSDGs講座を実施することで、カードを通して地域課題に対する対話や気づきを得る機会を提供し、SDGsの推進につなげていく。

8. 他地域への展開状況 (普及効果)

統合的取組でもあるSDGsを共通言語にこどもたちの夢へのきっかけづくりを行っていただく「こまきこども未来大学」は、企業・団体側の伝えたい「思い」と市が提供する「場」がマッチングし、市外の企業等からも講座開催のエントリーがある状況となっており、市内外のステークホルダーとの連携構築に大きく寄与している。また令和5（2023）年度には豊田市によるこまきこども未来大学の事業の視察の受け入れを実施した。

SDGs未来都市等進捗評価シート

2021年度選定

愛知県小牧市

2024年8月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

小牧市SDGs未来都市計画
～子どもたちの夢への挑戦を応援し、未来につながるまち～

—

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

小牧市SDGs未来都市計画～子どもたちの夢への挑戦を応援し、未来につながるまち～

(2) 2030年のあるべき姿

1. 経済（1-1. 若年世代から支持される魅力あふれるまち、1-2. 経済・雇用・財政の基盤が確立された活力あるまち）
2. 社会（2-1. こどもを中心にすべての世代がつながるまち、2-2. すべての市民が共生するまち、2-3. 健康と支え合いが循環するまち）
3. 環境（3-1. 循環型社会による環境にやさしいまち）
4. その他（4-1. 新型コロナウイルス感染症を糧に新たな脅威にも対応できるまち）

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール

経済			社会		環境

(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2023年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	従業者数（製造業、卸売・小売業）【8.3 8.5 8.8 9.2 10.2】	2016年 51,353人	2021年 51,533人	2030年 53,093人	10%
2	合計特殊出生率【3.7 3.8 4.1 4.2 4.3 4.a】	2018年 1.35	2022年 1.16	2030年 1.80	-42%
3	市内温室効果ガス排出量【7.2 7.a】	2017年 2,165千t-CO ₂	2021年 2,043千t-CO ₂	2030年 1,805千t-CO ₂	34%
4	協働による事業実施数【16.6 17.17】	2020年 52事業	2023年 70事業	2030年 100事業	38%

(5) 「2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- 指標1：「従業者数（製造業、卸売・小売業）」
 - ・事業者アンケートによると、少子高齢化や景気の停滞という全国的な社会情勢のなか、特に製造業において、人材を募集しても応募がなかったり、希望人数の採用に達しないことが原因として挙げられる。今後、令和6（2023）年度に創設した求職マッチングサイトの登録料や合同説明会への参加料に対する補助制度の周知を図ることで企業の人材確保の促進を図っていく。
- 指標2：「合計特殊出生率」
 - ・合計特殊出生率が減少した理由は分母となる15歳～49歳の女性人口の減少割合以上に出生数が減少したためである。令和2（2020）年からまん延した新型コロナウイルス感染症の影響により、出会いの機会の減少や結婚・出産を控えた夫婦がいることや経済的不安があることが要因と推測される。今後、移住に係る経費の補助制度の周知を図りつつ、令和5年度に創設した出会い・結婚支援室において、婚活イベントの開催、結婚に対する悩み相談、ライフプランセミナーの開催などにより、出会いの場の創出と結婚支援を図っていく。
- 指標3：「市内温室効果ガス排出量」
 - ・2020年の「1865千t-CO₂」と比較し、排出量が増加している。令和2（2020）年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、製造業の生産量の減少や貨物輸送量の減少等に伴ってエネルギー消費量が減少したが、令和3（2021）年度は経済停滞からの回復等によりエネルギー消費量が増加したことが原因と想定される。2030年の目標達成に向け、市民・事業者・自治体が一体となって、省エネルギー対策へ取り組むよう事業の検討を進める。
- 指標4：「協働による事業実施数」
 - ・2022年の「73事業」と比較し、新たに実施した事業もあったが、終了した事業もあり、トータルで微減となった。引き続き、市民活動団体等の活動の支援を行い、協働によるまちづくりの推進に努めていく。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2021年～2023年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)
1	中心市街地のにぎわい創出（【2030年のあるべき姿1-1】に向けた取組）	中心市街地に立地している施設の来館者数	2021年6月 - 万人	2021年 85.8 万人	2022年 114.2 万人	2023年 107.5 万人	2023年 75 万人	143%
2	持続して発展を続ける産業・経済の確立（【2030年のあるべき姿1-2】に向けた取組）	支援活動により生産性が向上した企業数	2020年 3 件	2021年 8 件	2022年 4 件	2023年 13 件	2023年 20 件	59%
3	子どもたちの夢への挑戦を応援する体制の構築（【2030年のあるべき姿2-1】に向けた取組）	将来の夢や目標を持っている子どもの割合	2020年 81.6 %	2021年 78.5 %	2022年 78.9 %	2023年 79.8 %	2023年 85.1 %	-51%
4	ダイバーシティの形成（【2030年のあるべき姿2-2】に向けた取組）	交流事業の参加者数	2020年 2,130 人	2021年 1,190 人	2022年 1,281 人	2023年 1,709 人	2023年 2,500 人	-114%
5	健康と支え合いの地域内循環の構築（【2030年のあるべき姿2-3】に向けた取組）	生きがいを持って暮らしている65歳以上の割合	2020年 76.6 %	2021年 79.5 %	2022年 - %	2023年 75.2 %	2023年 82.9 %	-22%
6	ゼロカーボンシティの実現（【2030年のあるべき姿3-1】に向けた取組）	再資源化率	2020年 37.0 %	2021年 36.6 %	2022年 36.5 %	2023年 37.3 %	2023年 37.8 %	37%
7	新型コロナウイルス感染症への対応と「新たな日常」の実現（【2030年のあるべき姿4-1】に向けた取組）	組織横断的なプロジェクトチームの設置数	2020年 4	2021年 5	2022年 6	2023年 4	2023年 7	0%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

【認証制度の調査研究】

本市はNPO法人が実施する宣言制度と、市が実施する登録制度によりSDGsの推進を図っている。令和5（2023）年度には認証制度について、県内で唯一実施している豊田市の事例を調査した。登録企業・団体の認証制度への需要や、認証制度により得られる効果などを踏まえ、今後も調査を続けていく。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2021年～2023年

（3）「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

●指標3：「将来の夢や目標を持っているこどもの割合」

・達成度がマイナスとなった要因としては新型コロナウイルス感染症により学校生活や人との交流が阻害されたことで、こどもたちの気持ちに落ち込みが見られたと考えられる。また、令和2（2020）年度～令和4（2022）年度は、こどもたちが交流して学ぶ拠点である「こまきこども未来館」の利用や学校生活や学校事業等も一部制限されていた。これらの理由により、令和5（2023）年度実績において基準値まで回復させることはできなかった。今後も引き続き、こどもの夢へのきっかけづくりや、こどもの学習につながるような事業を推進していく。

●指標4：「交流事業の参加者数」

・達成度がマイナスとなった要因は新型コロナウイルス感染症による影響により、令和2（2020）年度～令和4（2022）年度において事業を十分に実施できなかったことによると考えられる。特に外国人に関しては一度交流から離れた参加者が再度参加できるようになるまでに一定の期間を要すると想定されるため、今後も引き続き、参加者の増加につながるような取組を継続していく。

●指標5：「生きがいを持って暮らしている65歳以上の割合」

・令和2年度以降の調査結果を年齢別で見ると、「生きがいを持って暮らしている」と回答した割合が65～69歳と75歳以上で減少傾向、70～74歳で上昇傾向であり、達成度がマイナスとなった要因として65～69歳と75歳以上の方が生きがいを感じていないことが考えられる。今後は、退職後のセカンドライフの過ごし方や75歳以上の生きがいづくりを促進するため、令和6（2024）年度からアクティブシニアの総合相談窓口として各市民センターに各2回出張することで相談機会を増やす。

●指標6：「再資源化率」

・達成度は37%と目標達成には至っていないものの、再資源化率は確実に増加傾向にあり、全国的にも低い数値ではないと認識している。今後、再資源化率をより一層高めていくために、生ごみの減量の啓発、剪定枝類の排出方法や雑がみの収集日の見直しなどを通して、市民の排出利便性を向上させることにより、再資源化率の向上につなげる。

●指標7：「組織横断的なプロジェクトチームの設置数」

：目的を果たしたプロジェクトチームを廃止した結果、達成度が低くなったものである。今後も、組織横断的なプロジェクトチームを設置することで課題解決が見込まれるものについては積極的にプロジェクトチームを設置していく。

（4）有識者からの取組に対する評価

・子供を中心に据えた計画は具体的で多くの優れた取組が認められる。但し、SDGsの取組として子供だけでは物足りない。地域の多様な課題解決に向けたSDGsの統合的取組の推進が望まれる。

・2030年に向けて、若者世代からの支持、子ども中心を掲げる中で、合計特殊出生率の低下や将来の夢や目標を持っているこどもの割合の低下はやや気になる。

愛知県小牧市 第1期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

(1) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2023年	2030年（目標値）	達成度 （%）	第2期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況
1	従業者数（製造業、卸売・小売業）【8.3 8.5 8.8 9.2 10.2】	2016年 51,353 人	2021年 51,533 人	2030年 53,093 人	10%	少子高齢化に伴い従業者数の増減を指標とするのは適切ではないことから、指標を変更し、小牧市まちづくり推進計画第2次基本計画において、「将来の夢や目標を持っているこどもの割合」の進捗を確認していく。
2	合計特殊出生率【3.7 3.8 4.1 4.2 4.3 4.a】	2018年 1.35	2022年 1.16	2030年 1.80	-42%	少子高齢化のなかで、合計特殊出生率は今後下がる可能性が高く、市独自の取組で好転できる問題ではないことから、指標を変更し、小牧市まちづくり推進計画第2次基本計画において、「小牧市多文化共生推進プランの達成率」の進捗を確認していく。
3	市内温室効果ガス排出量【7.2 7.a】	2017年 2,165 千t-CO2	2021年 2,043 千t-CO2	2030年 1,805 千t-CO2	34%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており、引き続き小牧市まちづくり推進計画第2次基本計画で進捗を確認していく。
4	協働による事業実施数【16.6 17.17】	2020年 52.0 事業	2023年 70 事業	2030年 100 事業	38%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており、引き続き小牧市まちづくり推進計画第2次基本計画で進捗を確認していく。

(2) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2023年 実績	2023年 目標値	達成度 （%）	第2期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況
1	中心市街地のにぎわい創出 （【2030年のあるべき姿1-1】 に向けた取組）	中心市街地に立地している施設の来館者数	2021年 - 万人	2023年 107.5 万人	2023年 75 万人	143%	目標が達成できており、小牧市まちづくり推進計画第2次基本計画では目標値を110万人に見直し、さらなる推進を図る。
2	持続して発展を続ける産業・経済 の確立（【2030年のあるべき姿 1-2】に向けた取組）	支援活動により生産性が向上した企業数	2020年 3 件	2023年 13 件	2023年 20 件	59%	生産性が向上するかどうかは市が実施する事業以外の要因も関係することから、指標を変更し、小牧市まちづくり推進計画第2次基本計画において、「こまき新産業振興センターにおける支援企業数」の進捗を確認していく。
3	こどもたちの夢への挑戦を応援する 体制の構築（【2030年のあるべき姿 2-1】に向けた取組）	将来の夢や目標を持っているこどもの割合	2020年 81.6 %	2023年 79.8 %	2023年 85.1 %	-51%	目標達成度は新型コロナウイルス感染症の影響で当初値比較ではマイナスとなっているが、小牧市まちづくり推進計画第2次基本計画に基づき小牧こども未来大学等のこどもたちの夢への挑戦を応援する事業を実施する等の対策を進めながら進捗を確認していく。
4	ダイバーシティの形成（【2030年 のあるべき姿2-2】に向けた取組）	交流事業の参加者数	2020年 2,130 人	2023年 1,709 人	2023年 2,500 人	-114%	目標達成度は新型コロナウイルス感染症の影響で当初値比較ではマイナスとなっているが、小牧市まちづくり推進計画第2次基本計画に基づき文化・芸術団体の支援や活動の活性化を図る等の対策を進めながら進捗を確認していく。
5	健康と支え合いの地域内循環の 構築（【2030年のあるべき姿2- 3】に向けた取組）	生きがいを持って暮らしている65歳以上の割合	2020年 76.6 %	2023年 75.2 %	2023年 82.9 %	-22%	目標達成度は新型コロナウイルス感染症の影響で当初値比較ではマイナスとなっているが、小牧市まちづくり推進計画第2次基本計画に基づき市民の健康増進や、主体的に活躍できる環境づくりに取り組む等の対策を進めながら進捗を確認していく。
6	ゼロカーボンシティの実現（【2030 年のあるべき姿3-1】に向けた 取組）	再資源化率	2020年 37.0 %	2023年 37.3 %	2023年 37.8 %	37%	順調に進捗しており、引き続き小牧市まちづくり推進計画第2次基本計画に基づき生ごみの減量の啓発、剪定枝類の排出方法や雑がみの収集日の見直しなどの対策を進め進捗を確認していく。
7	新型コロナウイルス感染症への対応 と「新たな日常」の実現 （【2030年のあるべき姿4-1】 に向けた取組）	組織横断的なプロジェクトチームの設置数	2020年 4	2023年 4	2023年 7	0%	引き続き小牧市まちづくり推進計画第2次基本計画に基づき組織横断的なプロジェクトチームを設置することで事業の推進が見込まれるものについては積極的な設置の検討をする等の対策を進めながら進捗を確認していく。

愛知県小牧市 第1期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

(3) 第1期SDGs未来都市計画の進捗評価結果を踏まえた総括

第1期計画で達成度がマイナスとなった指標は、「(1) No2.合計特殊出生率」、「(2) No3.将来の夢や目標を持っているこどもの割合」、「(2) No4.交流事業の参加者数」、「(2) No5.生きがいを持って暮らしている65歳以上の割合」である。このうち、「(1) No2.合計特殊出生率」については、令和5（2023）年度に「出会い・結婚支援室」を新たに創設し、若者の結婚に向けた出会いの場を創出する事業や結婚後の夫婦の移住定住を支援する事業等を実施しているが、国レベルで少子高齢化が進んでいる中で、一自治体の取組だけで向上させることは困難であると考え、第2期計画の指標からは外すこととする。また、それ以外の指標については新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けており、当初値よりも数値が低下し、達成度がマイナスとなっているが、今後事業を継続して実施していくことで向上するものと考えている。

●特筆すべき事業内容

①こまきこども未来大学

企業・団体からSDGsや社会について様々なことを学ぶ講座を通して、こどもたちが「やってみたいこと」や「夢」を見つけるきっかけとする「こまきこども未来大学」を令和4年度から継続して実施している。

②SDGs登録制度

本市では令和4年度に「SDGs登録制度」を構築するとともに、交流サイトを創設し、登録企業・団体の情報発信、交流を促進している。

●成果

①：参加者したこどもたちの90%以上がアンケートに「よかった」と回答し、参加企業・団体の60%以上が「来年も参加したい」と回答しており、双方から高い満足度を得ている。

②：令和5（2023）年度末時点で、登録企業・団体数は41である。

●課題

①：新型コロナウイルス感染症の影響で「将来の夢や目標を持っているこどもの割合」は目標値から達成度がマイナスとなっている。

②：SDGsに係る目標を掲げて行動に移していく登録企業・団体の数を増やすとともに、具体的な交流を生み出していく工夫が必要であるとする。

●今後の展望

①：新型コロナウイルス感染症の影響により市の事業や学校生活に一部制限がかかったことで「将来の夢や目標を持っているこどもの割合」が当初値からマイナスとなったが、今後はこまきこども未来大学をはじめこどもたちを対象とした事業を継続実施することで徐々に指標は向上していくとする。

②：登録制度の情報発信をNPO法人と協力して促進することにより登録企業・団体の増加を図るとともに、登録企業・団体同士の意見交換や新たな行動のきっかけとなるよう、WEBサイト内だけでなく対面での交流会の充実を図る。

(4) 有識者からの取組に対する評価

・中心市街地のにぎわい創出は着実に進んでいると考えられる。